

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間の尊厳と自立	授業の種類 通信	授業担当者 角 千鶴、谷川 綾乃
レポート提出の回数 <p style="text-align: center;">1 回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">5 時間</p>	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① <u>人間の尊厳と自立</u></p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解 I	授業の種類 通信	授業担当者 岡部 勝、池田 志津代
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 5 時間	
[授業の目的・ねらい] 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] ① <u>介護保険制度</u> [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ● 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト 1 巻～5 巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90 点以上、B=89～80 点、C=79～70 点、D=69 点以下の 4 段階で評価し、C 以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 岡部 勝、山野 すみ子 池田 志津代
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 30 時間	
[授業の目的・ねらい] 人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程、社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解し、介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>生活と福祉</u> ② <u>社会保障制度</u> ③ <u>障害者自立支援制度</u> ④ <u>介護実践に関連する諸制度</u>		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ● 家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ● 社会保障制度の発達、体系、目的、財源等についての基本的な知識を修得している。 ● 障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ● 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅰ	授業の種類 通信	授業担当者 井上 信作、田中 一葉 興梠 ひとみ
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 10 時間	
[授業の目的・ねらい] 介護の歴史を知り、介護福祉士の誕生と社会的役割の理解と安全の確保について学び、「尊厳保持」や「自立支援」について理解を深め、人間尊重を基盤とした「介護観」を養う。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>介護福祉士制度</u> ② <u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u> ③ <u>介護福祉士の倫理</u>		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] <ul style="list-style-type: none"> ● 介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 ● 個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ● 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。 		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 三林 智子、池田 志津代 立橋 幸美
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 20 時間	
[授業の目的・ねらい] 「介護を必要とする人」を生活の観点から捉え、介護における安全やチームケア等について理解する。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u> ② <u>介護実践における連携</u> ③ <u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u> ④ <u>介護福祉士の安全</u>		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ● 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ● チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 ● リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。 ● 介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術	授業の種類 通信	授業担当者 岡部 勝、三林 智子
レポート提出の回数 <p style="text-align: center;">1 回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">20 時間</p>	
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とするものの理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>介護におけるコミュニケーション技術</u> ② <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> ③ <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 ● 援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。 ● 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ● 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I	授業の種類 通信	授業担当者 岡部 聡、和田 由加理 田中 優美子、中村 優太 木下 晴美、権頭 加奈子 馬場 恵、立橋 幸美
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 20 時間	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① <u>生活支援と ICF</u> ② <u>ボディメカニクスの活用</u> ③ <u>介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)</u> ④ <u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u></p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している ● ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ● 介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ● 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護職員等実務者研修テキスト 1 巻～5 巻 (中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>修了試験に対し、A=90 点以上、B=89～80 点、C=79～70 点、D=69 点以下の 4 段階で評価し、C 以上の評価を合格とする。</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 和田 由加理、作花 佳子 田中 優美子、馬場 恵 木下 晴美、権頭 加奈子 村井 美津枝
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 30 時間	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「居住環境」や「身支度」の具体的な生活支援と他職種との連携・協働の重要性を学び、終末期介護の意味、チームアプローチの役割と連携できる力を養うための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① <u>利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備</u> <u>・移動、移乗 ・食事 ・入浴、清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、</u> <u>口腔清潔・睡眠 ・終末期の介護</u></p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>● 以下について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。 ・移動、移乗 ・食事 ・入浴、清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・睡眠・終末期の介護</p>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程 I	授業の種類 通信	授業担当者 上境 洗太、角 千鶴
レポート提出の回数 <p style="text-align: center;">1 回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">20 時間</p>	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>科学的根拠に基づいた介護過程の意義・目的・展開のプロセスや、利用者の様々な生活の事例で考える介護過程とチームアプローチの実践について習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① <u>介護過程の基礎的知識</u> ② <u>介護過程の展開</u> ③ <u>介護過程とチームアプローチ</u></p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 介護過程の目的、異議、展開等を理解している。 ● 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ● チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 角 千鶴、田中 一葉 神崎 美穂、上境 洸太
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 25 時間	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護過程の理解（全体像・アセスメント・計画立案・実施・評価）や適切な介護サービスの提供ができる能力を養うための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護過程の展開の実際</p> <p>① <u>利用者の状態（障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等）について事例を設定し、介護過程を展開させる。</u></p> <p>② <u>観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。</u></p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 （中央法規出版）</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅲ	授業の種類 スクーリング	授業担当者 山野 すみ子、井上 信作 角 千鶴、田中 一葉 神崎 美穂
授業の回数 9 回	時間数(単位数) 4 5 時間	
[授業の目的・ねらい] 知識・技術を総合的に活用し、利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開について習得する。 [授業全体の内容の概要] ① <u>介護過程の展開の実際</u> ・ <u>多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。</u> ② <u>介護技術の評価</u> ・ <u>介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。</u>		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ● 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 ● 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 ● 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ● 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解 I	授業の種類 通信	授業担当者 大原 良子
レポート提出の回数 <p style="text-align: center;">1 回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">10 時間</p>	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の発達という観点から老化の意味を知り、介護の中にある倫理観を理解するための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① <u>老化に伴う心の変化と日常生活への影響</u></p> <p>② <u>老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</u></p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ● 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 中村 優太、廣末 良子 岡部 勝
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 20 時間	
[授業の目的・ねらい] 老年期の身体的・精神的変化の特徴を理解し、老年期介護の視点を習得する。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>人間の成長・発達</u> ② <u>老年期の発達・成熟と心理</u> ③ <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ● 発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ● 老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）との支援の留意点について理解している。 ● 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。 		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解 I	授業の種類 通信	授業担当者 三林 智子、谷川 綾乃
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 10 時間	
[授業の目的・ねらい] 脳・記憶のメカニズムについて知り、認知症が一つの疾患であることや、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解するための学習とする。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>認知症ケアの理念</u> ② <u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u> ③ <u>認知症の人とのかかわり・支援の基本</u>		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ● 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ● 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ● 認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。 		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 岡部 聡、興梠 ひとみ
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 20 時間	
[授業の目的・ねらい] 認知症の行動障害の理解と対応方法、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 [授業全体の内容の概要] ① <u>医学的側面から見た認知症の理解</u> ② <u>認知症の人や家族への支援の実際</u> [授業修了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ● 代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ● 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ● 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I	授業の種類 通信	授業担当者 山野 すみ子、野尻 阿佐
レポート提出の回数 <p style="text-align: center;">1 回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">10 時間</p>	
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するための学習とする。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>障害者福祉の理念</u> ② <u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u> ③ <u>障害児者や家族へのかかわり・支援の基本</u>		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ● 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ● 障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ● 障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。 		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 山野 すみ子、野尻 阿佐
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 20 時間	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得するための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① <u>医学的側面からみた障害の理解</u> ② <u>障害児者への支援の実際</u></p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。 ● 障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ● 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ころとからだのしくみ I	授業の種類 通信	授業担当者 和田 由加理、村井 美津枝 田中 優美子、馬場 恵 木下 晴美、権頭 加奈子
レポート提出の回数 <p style="text-align: center;">1 回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">20 時間</p>	
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解するための学習とする。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)</u>		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ● 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト 1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅡ	授業の種類 通信	授業担当者 和田 由加理、作花 佳子 田中 優美子、馬場 恵 木下 晴美、権頭 加奈子 村井 美津枝、廣末 良子
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 60 時間	
[授業の目的・ねらい] 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解するための学習とする。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>人間の心理</u> ② <u>人体の構造と機能</u> ③ <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u> ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、 口腔清潔		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ● 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。 ● 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。 ● 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。 		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア	授業の種類 通信	授業担当者 山本 清美、廣末 良子
レポート提出の回数 1 回	時間数(単位数) 50 時間	
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。 [授業全体の内容の概要] ① <u>医療的ケア実施の基礎</u> ② <u>喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)</u> ③ <u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)</u> ④ <u>演習</u> [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ● 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア演習	授業の種類 スクーリング	授業担当者 山本 清美、廣末 良子
授業の回数 2 回	時間数(単位数) 10 時間	
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。		
[授業全体の内容の概要] ① <u>演習</u>		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]		
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>喀痰吸引</u> ・ <u>口腔5回以上・鼻腔5回以上・気管カニューレ内部5回以上</u> ● <u>経管栄養</u> ・ <u>胃ろう又は腸ろう5回以上・経鼻経管栄養5回以上</u> ● <u>救急蘇生法演習1回以上</u> 		
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト1巻～5巻 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 修了試験に対し、A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、C以上の評価を合格とする。	